

平成 30 年 4 月 4 日

芦屋市企画部市民参画課
課長 浅野 令子様

芦屋市立あしや市民活動センター
＜指定管理者：(特活) あしや NPO センター＞
事務局長 橋野浩美

平成 29 年度第 3 回リードあしや自主講座企画応援プログラム 報告書

1. 実施概要

目 的：地域の課題解決に資する講座企画を支援することで、団体の育成を図る。

対 象：あしや市民活動センター登録団体

期 間：平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月

方 法：講座企画を公募し、選考を経て 3 団体を採択。資金面での支援、センター職員が企画案のブラッシュアップや効果的な広報の打ち出しを通じて、より効果的な講座づくりを支援する。

応募数：6 件

採択数：3 件

採択団体：(一財) 日本熊森協会、AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」、こくさいひろば芦屋

評価方法：下記の 6 つの観点について、市およびセンター職員 3 人が 5 段階で評価し、評価者の合計点を比較して原則選考した。

A 本プログラムの趣旨に沿っているか

B 団体の趣旨に沿っているか

C テーマ設定の妥当性があるか

D 社会的ニーズに合致するか

E 社会的インパクトはどの程度あるか

F 費用は妥当か

一過性の性格が強いイベントの提案や、内容レベルが変わらない継続申請、受益者負担が可能な内容の申請を不採択にし、より社会公益性の高いもの、将来発展性が見込める案件を採択した。

2. 支援内容

「企画運営のアドバイス」、「広報支援」、「資金支援」から応募団体が選択

① 企画運営のアドバイス

「支援シート」

昨年度と同様のシートで課題を視覚化し共有しながら進めた。団体ごとに

面談、話合いの内容をもとに支援シートを作成。企画の立て方、スケジュール、ポイントを確認した。

「講座実施報告書」

講座終了後に報告書を提出してもらい、講座を今後につなげる視点で振り返りを行った。

② 広報支援

ちらしのデザイン、広報の方法、ニュースリリースの出し方などの具体的な助言を行うとともに、「広報あしや」に掲載を依頼、ウェブサイト（リードあしや、ボランティアプラザ）に掲載した。団体のもっているネットワーク、CRM（顧客マネジメント）に基づき広報戦略を立てるようアドバイスした。

③ 資金支援（助成金）

1 団体あたり 3 万円を助成。講師料、材料費などに充てられた。

3. 各団体の講座

団体名	日程	講座名	参加者数
AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」	11/21 -2/6	「南京玉すだれ」を楽しもう 全 6 回	9 名 (修了 7 名)
こくさいひろば芦屋	2/17- 3/17	にほんご支援者養成講座 全 5 回	35 名
一財) 日本熊森協会	3/24	クマのすむ豊かな森を未来へ	40 名

4. 振り返り

【全体】

いずれの講座も定員を超えるほどの参加希望があり参加人数の面では目標を達成したといえる。ただ、講座後の出口については十分設計されていない問題も見られた。

【AC31 期同期会南京玉すだれ「ひまわり会」】

- ・ 講座の進め方、メンバーの受け入れ方などが素晴らしかった。AC 修了生に限るというメンバーシップのルールを崩すことが結果できなかったため、本講座の修了生のフォローが問題になった。別途新たなグループを立ち上げて、既存グループのメンバーも参加する形で発足することになる見込み。新たな動きへつなげることができた。

【こくさいひろば芦屋】

これまでで最も長期間の講座企画となり、参加者が集まるか危ぶまれたが広報が功を奏し、結果当初の募集人数を上回った。講座の目的と実際の内容については若干

のずれがあったが、おおむね新たなボランティアを育成する

【一財）日本熊森協会】

参加人数は集まったものの、一般7名を除くとすべて会員であった。講演会をきっかけに入会者を増やすという当初の目的の到達はできなかったが、広報戦略の組み立て方を学ぶことができた。歴史がありメンバーも多い団体だが、ターゲット層が明確になっていないこと、ITCでの広報が遅れたことなどもあり、目的の対象にアプローチしにくかった。今後、組織全体として広報戦略を練り直す。

5. 今後について

本事業は予定通り3年で終了する。登録団体対象の企画講座支援としては一定の役割を果たしたと考える。講座の企画の組み立てやその参加者を集める広報の問題だけでなく、組織がどのように何のために事業を進めるのか、それを誰が担うのかを明確にして、事業サイクルを回すことができているかがカギになる。今後は個別の相談対応で支援していく。

以上